

講義名	文化人類学			
担当教員	植野 加代子			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

文化人類学では、アジアの文化を通じて異文化を理解し、自文化をとらえ直すことを主題とする。この講義では、特にアジアでの庶民の生活文化を、文献資料だけではなく、フィールドワーク・写真・映像資料等を用いて紹介する。各国の文化・生活習慣・祭礼などの具体的な事例を取り上げ、多様な異文化の理解を深めると同時に、講義でとりあげる各国以外の国の生活習慣とも比較しながら講義を進める。

到達目標

アジア各地の事例をとおして文化の多様性と普遍性について知り、当たり前だと思っていた自国の文化に対する新たな見方ができるようになる。さらに、異文化を知ることで思考力や想像力の幅を広げ、自由な発想や知識を生み出すことを身につけることができるようになる。

提出課題

1. 毎回、小レポートまたは感想文の提出を課す。提出課題は講義中に伝える。
2. 講義に関連した事柄について、レポートの提出を求める。レポート課題については、別途、講義中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の講義終了時に書いてもらう小レポートや感想文を、次回以降の講義で事例の一つとして紹介する。

評価の基準

評価は、以下の2点を総合しておく。
1. 小レポート（毎回の小レポートまたは感想文）
2. 課題レポート

履修にあたっての注意・助言他

1. ノートを作りながら学ぶこと。
2. 講義中に学んだことを、日頃の日常生活の中でも実際にどういう場面があるか考えてみること。
3. 講義中、私語など受講態度が好ましくない学生には退出を求めることがある。

教科書				
.使用しない。 .				

プリント資料及び参考文献

〔資料〕
各回、プリント資料にして配布する。
〔参考文献〕
講義中に適宜紹介する。

- 授業計画**
1. 文化人類学とは
フィールドワーク
 2. インドネシアの文化
少数民族の住居
 3. インドネシアの文化
伝統舞踊・伝統楽器
 4. インドネシアの文化
生業
 5. インドネシアの文化
舞踏・墓制
 6. ベトナムの文化
年中行事1
 7. ベトナムの文化
年中行事2
 8. ベトナムの文化
婚姻
 9. ベトナムの文化
少数民族の農業と市場
 10. ブータンの文化
民俗と伝統表現
 11. ブータンの文化
市場と食
 12. ブータンの文化
住居と建築様式
 13. ブータンの文化
宗教と儀礼
 14. ブータンの文化
仏教文化と祭礼
 15. インド・ランカム・ダーズリンの文化
山地の生活と伝道

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

〔予習〕
次回の講義で取り扱う各国の概要や興味ある事柄をあらかじめ自分で調べる（約2時間）。
〔復習〕
講義終了時、講義内容に関わる小レポートまたは感想文を記入する。また、自分で講義から得た各国の文化と自国の文化を比較し、相違点や類似点などを考えたりする（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

諸外国の習慣や文化を知ることにより、新しい視点や豊かな発想によって、新たな価値を生み出すことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業は、プリント資料を用いて進める。また、毎回の授業において、受講生自らの感想などを用紙に記入する時間を設ける。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。東南アジア諸国の日本語科の学生に指導するだけでなく、学生や地域の人々と日常生活や行事などを一緒に体験したり現地で教えてもらった。、その他、東南アジア諸国だけでなく、ブータン王国やヨーロッパ諸国などへ現地調査に行った実務経験を有しており、その経験を活かし、講義を行う。

備考

この講義では、世界の日常生活のすべてがテーマとして扱える。そのため、日々の生活をなげなく過ごすのではなく、日頃から関心や興味を持って生活するように心がけてもらいたい。世界の人々の日常生活がすべて資料であり、受講生の各自の生活も資料になり、各国各地の特色をみんなで一緒に考えていきたい。
新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの内容が一部変更することもあります。